



おもしろい
大学

富山大学
×
金沢大学

富山大学
University of Toyama

2026

教育学部

School of Education

学部案内

富山大学×金沢大学

共同教員養成課程

Joint Institute of
Teacher Education

教育学部共同教員養成課程

— 新しい形の学校教員養成 —

富山大学教育学部は、金沢大学人間社会学域学校教育学類との共同教員養成課程という形で、小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園の各学校種について、**様々な教育課題に的確に対応できる実践的能力を備えた教員を組織的・計画的に養成することを目的**としています。福祉や情報に関する教育を含めて、人間発達科学部が培ってきた広い意味での教育人材養成の方法論と、金沢大学の学校教育学類が培ってきた学校教員養成の方法論とを合わせた、**新しい形の教員養成学部**です。

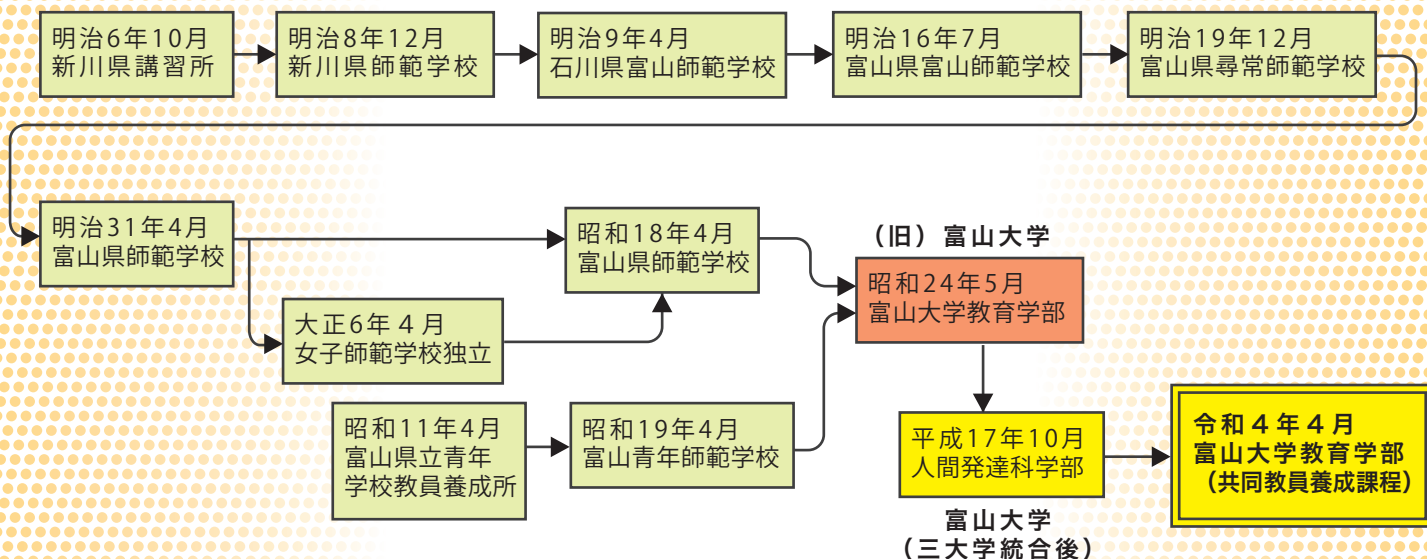
今、社会は多くの現代的教育課題を抱え、これに対応できる能力を持った質の高い教員が求められています。またプログラミング教育の導入や外国語学習の拡大なども進んでいます。こうした現状に対応できる能力を持った質の高い教員を養成するために、富山大学と金沢大学の双方から幅広く先進的な科目を提供し、県教育委員会との連携事業等も活用して、教員として必要な専門的知識・技能、子どもの成長を支援する力を身につけてもらいます。また小学校と中学校といった異なる段階の学校種の間で教育をつなぐ重要性が指摘されている現状を踏まえ、**小学校教諭一種免許状ともう1種類の教員免許の2つを取得することができます**。そのために、**卒業までに全員が小学校の教育実習を経験し、さらにもう一校種（中学校、幼稚園、または特別支援学校）の教育実習を経験することになります**。

このように、教育学部では、社会的・教育的要請に応えられるような能力を身につけた教員として社会に出ていけるよう、充実したカリキュラムを用意しています。是非ともこの新しい教育学部で学び、これからの社会の課題に対応できる教員を目指して下さい。



沿革

富山大学教育学部の源流は1873年（明治6年）に開設された新川県講習所という教員養成所に遡ります。以下では、明治期から現在に至るまでの教育学部の沿革を示します。



富山大学教育学部長からの メッセージ

富山大学 教育学部長 片岡 弘



富山大学教育学部では、金沢大学人間社会学域学校教育学類と連携し、共同教員養成課程を運営しています。両大学の教員が協力し、専門性を活かした一体的な教育課程を展開していることが本学部の大きな特長です。学生は、富山大学の教員による授業に加えて、金沢大学の教員による授業も受講し、幅広い知見に基づく学びを実現しています。こうした仕組みにより、現代の教育現場が直面する多様な課題に柔軟に対応できる教員の育成を目指しています。

本学部で学ぶことにより、小学校教諭一種免許状に加え、中学校や高等学校の各教科、特別支援学校、幼稚園のいずれかの教員免許状を取得します。私たちが大切にしているのは、「教えること」への理想と情熱をもち、実践的な知識・技能を身につけるとともに、広い視野と豊かな人間理解力を兼ね備えた教員の育成です。特に、子どもの心に寄り添い、共に成長する力を重視しています。その実現のために、地域の教育委員会と連携し、入学初年度から小学校を中心とした現場での実習や体験の機会を充実させています。

教員の仕事は、子ども一人ひとりと真摯に向き合う細やかな配慮と柔軟な対応力が求められますが、その分、子どもの成長に深く関わり、日々の学びの中での発見や感動を共有できる、意義深くやりがいのある職業でもあります。

地域の子どもたちとともに学び、ともに育つ——そんな教員を、私たちと一緒に目指してみませんか。
皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。

教員養成課程は、文字通り教員を養成するための課程であり、卒業に必要な単位を取得すると教員免許という資格が与えられます。学校教員になることを主目的として、教科の専門知識や指導技術、生徒指導の方法などを学ぶためのカリキュラムが組まれています。言い方を変えると、教員免許取得が卒業要件になっているので、最初から教員になるつもりのない人には向いていないかもしれません。文学部や理学部などを卒業して教員になる場合は、教員志望の人に向けて用意された教職課程により、通常の必修科目の授業に加えて、教員になるための授業を受け、これも卒業単位とは別となる教育実習にも行く必要があります。また、取得できる免許が限定されていることもあるなど、教員養成課程での教員免許取得と異なります。

富山大学教育学部と金沢大学学校教育学類が運営する共同教員養成課程は、まさに「教員になるための課程」です。卒業してすぐに教壇に立てるように、教員になるためのサポートを全力でしていきます。教育現場に出かける機会も多いので、先生になったときの基盤をすることもできます。もしあなたが教員の仕事に魅力を感じ、子どもたちの成長を喜びながら、地域の未来を支える人づくりに貢献したいと考えるならば、ぜひ共同教員養成課程に入学してください。金沢大学もあなたの教員への情熱を応援し、幅広い知識と経験を提供します。

金沢大学 学校教育学類長
辻井 宏之

金沢大学人間社会学域 学校教育学類長からのメッセージ



教育学部の特徴

point

1 ユニークな教育体制

学部はコースや学科に分かれていません。学生は入学すると数人ずつに分かれ、1～4年生の十数人の学生で「**学生ユニット**」を構成します。各ユニット単位の活動や、富山・金沢両大学のユニット同士の共同活動を通じて、他学年との交流に加え、同学年でもさまざまな教科、校種を目指す仲間との交流や学びが促進されます。

一方、専門的な知識や技能については、各自の取得希望免許や関心に応じた「**科目グループ**」を主体として学びます。免許については、小学校教諭一種免許状と合わせて、卒業時に最低2種類の教員免許状を取得することが必要です。ほかにも、必要な単位を取得することで、保育士免許や各種資格の取得が可能です。

このように**学生ユニット**と**科目グループ**の2つの仕組みを活用したユニークな教育・指導体制によって、学生の主体的な学びを促進しながら、広い視野を持った学校教員に育てていきます。

★ 学生ユニット

- ・各学年 4～5 人、1～4 年生の十数人の学生で構成
- ・4 年生まで複数の担当教員が代わらず指導（定期的な面談も）
- ・各ユニット、複数ユニット、金沢大のユニットなどと各種の交流、企画等を実施

★ 科目グループ

- ・各自の取得希望免許や関心に応じて専門的な知識や技能を学ぶ
- ・卒論等の指導体制の基盤
- ・より柔軟な免許状の取得や、専門的知識・技能の習得が可能

point

2 多彩な専門科目と幅広い知識の獲得

現代的教育課題に対応した先進的科目を中心に、富山大学と金沢大学の教員が相互に相手大学に授業を提供するので、学生はこれまでより幅広いテーマや分野の科目を受講できます。金沢大学が提供する科目も、実技などの一部の科目を除き、富山大学キャンパスで対面ないし遠隔授業によって開講され、金沢大学キャンパスへ移動する必要はありません。



専用ネットワーク接続
またはインターネット接続



point

3 合宿や教育委員会との連携を生かした現場体験

教育実習以外にも学校現場を体験する活動を重視します。両大学の1年生全員が合同で参加する合宿（必修）では、両大学の交流を図ると共に、教師の観点から野外活動実習を行います。また教育委員会との連携事業を活用し、小学校を中心に教育現場での体験機会も提供します。

取得可能な免許・資格

〔免許〕 ● 幼稚園教諭一種免許状

● **小学校教諭一種免許状（取得必須）**

● 中学校教諭一種免許状（国語・社会・数学・理科・音楽^{*}・美術^{*}・保健体育・家庭・英語）

● 高等学校教諭一種免許状

（国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽^{*}・美術^{*}・保健体育・家庭・英語）

● 特別支援学校教諭一種免許状（聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者）

^{*} 音楽免許科目および美術免許科目のうち一部の科目は金沢大学・角間キャンパスで開講

〔資格〕 ● 保育士

● スポーツコーチングリーダー（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格）

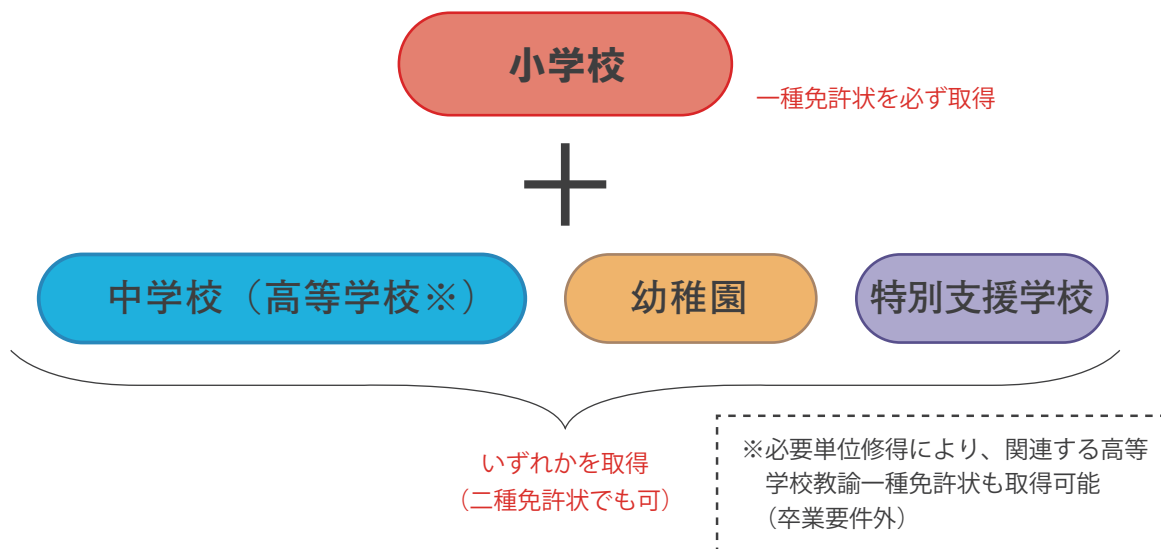
● アシスタントマネジャー（日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格^{*}）

● 公認スポーツ指導者 共通科目Ⅰコース修了（日本スポーツ協会）

^{*} 学内試験で合格した場合に認定

取得免許と卒業要件

小学校教諭一種免許状の取得は、卒業のための必須要件です。小学校教諭一種免許状とは別に、幼稚園、中学校、特別支援学校のいずれかの免許状を取得することが卒業要件になります。つまり、小学校教諭一種免許状に加えて、もう1つの教員免許状を取得した状態で卒業することになります。



小学校教諭一種免許状以外の免許状については、どの免許状を取得するのは各自の志向にあわせて選択することが可能です。これらの免許状については二種免許状でも構いません（必要単位を揃えることで一種免許状にすることが可能です）。また、**教育実習の実施計画等の理由により人数制限を設けることがあります。**

教育学部のポリシーについて

このような人を求めています

専門職としての教員を目指す熱意にあふれ、仲間と協力しながら専門的能力・技能を伸ばしている人を求めます。特に以下のような点を重視します。

- ・教育を通じて、地域社会の発展に貢献しようという強い意志を持つ。
- ・教員を真摯に目指し、人を育てることの大切さと喜びを感じられる。
- ・現代的教育課題を含む幅広い分野に興味・関心を持っている。

このような教育を行います

- ・学校教育についての理解を深め、教員としての専門的知識と実践力を学ぶ。
- ・現代的教育課題に挑戦する意欲や能力を身に付ける。
- ・1つの専門領域や校種に限定せず、幅広い視点を養う。

このような人を育てます

豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、教科や教職に関する専門的知識と技能を身に付け、新たな教育的課題に適切に対応できる実践力を備えた、以下のような教員を育てます。

- ・教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性を持ち、自己研鑽を積む態度を身に付けている。
- ・子どもへの教育的愛情、教員としての使命感・責任感・倫理観、子どもの理解に関する知識を身に付けている。
- ・教職に関する専門知識と技能、教育を実践する基礎的能力を身に付けている。

※各ポリシーの全文は、本学ウェブサイトに掲載しています。



附属中学校での授業実習

令和8年度入学者選抜について

総合型選抜Ⅱ（芸術型）・（家政教育型）が新設されます。
詳細は選抜要項、募集要項（令和8年度）をご確認ください。

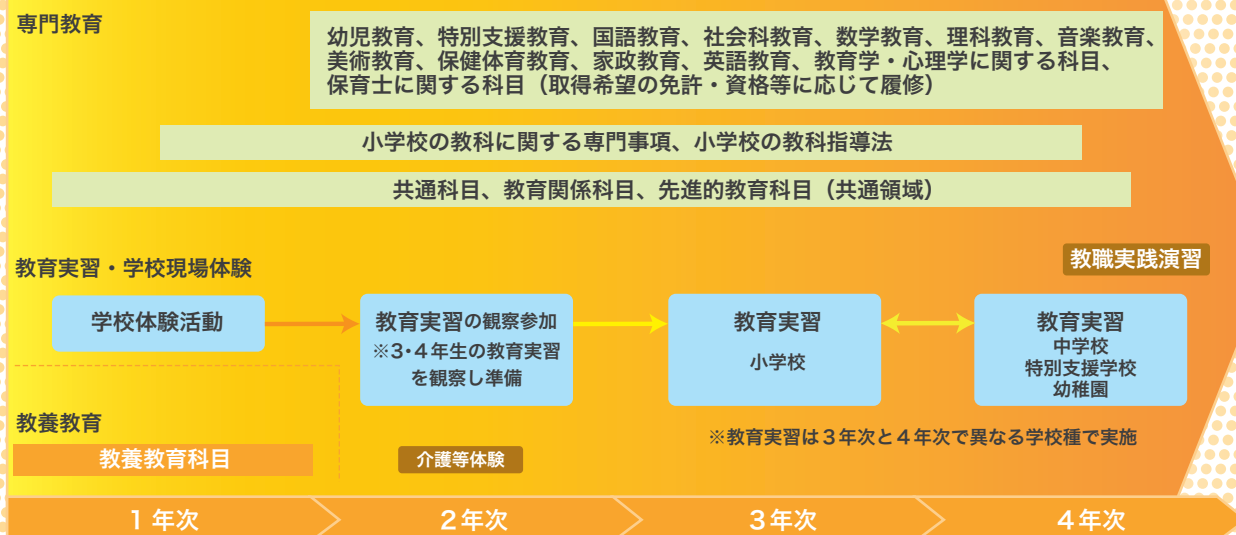
入試区分（定員 85 名）【 】内は各区分の定員を示す。		検査内容（概要）
前期日程	【56 名】	大学入学共通テスト、個別学力検査
後期日程	【10 名】	大学入学共通テスト、面接
総合型選抜Ⅰ（スポーツ実技型）	【5 名】	書類審査、実技（運動技能検査）、面接
総合型選抜Ⅱ（芸術型）	【音楽 3 名、美術 3 名】	大学入学共通テスト、書類審査、面接
総合型選抜Ⅱ（家政教育型）	【3 名】	大学入学共通テスト、書類審査、面接
学校推薦型選抜Ⅱ（幼児教育・特別支援教育型）	【5 名】	大学入学共通テスト、面接、集団討論
帰国生徒選抜	【若干名】	個別学力検査、面接
社会人選抜	【若干名】	個別学力検査、面接

※総合型選抜Ⅱ（理数型）、私費外国人留学生選抜は廃止されました。

4年間の学修の流れ

1年次は教養教育科目を履修しつつ、学校体験活動で教育現場を経験します。2年次以降は、専門的な知識・技能に関する教育と、教育実習の観察参加（2年次）、教育実習（3年次以降）等を並行して履修します。
このように、専門性と実践力を兼ね備えた教師を育成するためのカリキュラムを用意しています。

卒業研究



初等理科教育法Ⅰ・Ⅱ

小学校理科では子どもたちが興味や関心をもって観察や実験に取り組むなかで、科学的に問題解決に取り組む授業が求められます。この授業では、小学校において理科の授業を行うために必要な知識と経験を身に付けるため、理科特有の内容である観察や実験を授業の中で安全に気を付けて実施する方法や、タブレットを用いた授業やプログラミング教育などについて学びます。これらの知識と経験を活用し、授業事例の分析だけでなく、指導案の作成、模擬授業などを行いながら、興味関心をもって取り組める理科授業を行う力の育成を目指します。



教育相談の理論

この授業では、学校教育現場で起こりうる子どもの適応上の問題を理解し、実際の教育相談で使うことのできる学校カウンセリングの習得を目指します。その際、学校心理学を基盤としつつ心理教育的援助サービスの実践を理解し、すべての子どもを対象としたチームとして行う学校カウンセリングがどのようなものかについて考えていきます。



開設科目の紹介

開設科目の紹介

幼児と表現

幼児の表現（身体・音楽・造形）について学ぶ科目です。授業では、幼児の表現の事例を学んだり、その発達を促す遊びを実際に体験したりします。この写真は、幼児の造形表現の発達を促す教材作りを体験している様子です。



住居学概論Ⅰ・Ⅱ

日本の地勢や気候に伴う住居への対策や、サステナブルデザインやSDGsを含めた都市環境の課題について紹介した上で、熱・空気・音・光の住環境要素と人間の反応を踏まえた環境制御方法について講義します。季節の変化に合わせた住環境の制御方法に関する解説を通して、快適で省エネルギーな住まいを創造する意義や方法を具体的に理解することを到達目標とします。住居学に関する基礎知識を習得し、建築環境工学の手法や設備を理解した上で、地球環境問題への住生活の関わりについて考察できるようになることを目指します。



政治学概論Ⅰ・Ⅱ（現代的課題を含む）

この授業では、主要な政治学の理論を扱います。政治学とは、統治（国内政治ではGovernment、国際政治ではより緩やかなGovernance）、つまり統治者、被統治者、そしてメディアとしての権力を巡る関係の在り方を中心として研究する学問です。特に現代ではグローバル化が著しく進展し、国境を超えた相互連関は、政治的な側面においても深化しています。その観点からこの授業では、国内社会のみならず、国際社会をも射程範囲とします。そのため、ⅠではGovernmentに関する理論（主に民主主義について）、ⅡではGovernanceに関する理論（国際政治を捉える主要な枠組み）を取り上げます。それにより、受講者が今日の世界のダイナミズムを分析するツールを活用するための能力を養うことが、本授業のねらいです。

音楽科基礎A

子どもたちに「楽しい!」と思わせる音楽科教育の裏には基礎的な学習の積み重ねがあります。音楽はあらゆる学問に通じる側面を持っており、幼児期から欠かせない要素です。この授業で楽典から歴史や演奏論まで幅広く学んで基礎的な力を身につけることが、音楽科教育の第一歩になります。

デザイン基礎Ⅱ（映像メディア表現・現代美術表現を含む）

デザインについて理解するためには、目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える視点が必要です。その視点に立ち、中学校美術科のデザイン分野につながる専門知識・技能を深めるために、教科書に基づいた課題制作（シンボルマーク、模様のデザイン、立体を意識したデザインなど）を行います。

コンピュータを用いた加工もとり入れながら、幅広い学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求します。



算数科基礎A（低・中学年）

小学校で算数を教える際に必要となる数学の基礎を学びます。特に、数、関数、方程式などについての理解を深めることを目的とします。数については、素数や約数の諸性質、商と余りの定理とその応用などを学びます。関数については、その定義を理解したうえで幾つかの具体例を考察します。方程式については、その仕組みを様々な角度から考えます。算数と数学へのさらなる興味を持つことを期待します。

調理実習（地域の食文化比較を含む）

中学校・高等学校の家庭科教員として必要となる調理操作、および衛生面・安全面・環境面・栄養面などに配慮した食品の取扱いなど、調理実習に関する基本的な知識と技能を実践的に学びます。また、北陸地域の食材を用いた郷土料理についても扱い、理解を深めます。



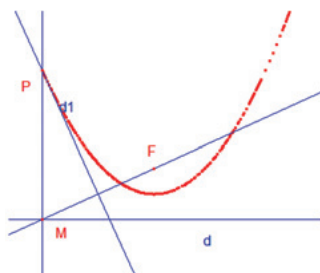
特別支援教育実地演習

この授業では、特別支援教育の概要や障害種に応じた教育施設・教育内容について理解するため、視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、病虚弱児教育を行っている特別支援学校の施設及び授業見学を行ないます。大学における講義だけではなく、実際に特別支援学校を訪問し、具体的にかつ体験的に学ぶことができます。



数学科教育法Ⅰ・Ⅱ（富山県の実践を含む）

中学校や高校で生徒にどのように数学を教えたらいかがその教え方を学ぶ授業です。この授業では、数学の授業を計画するためにインターネットの活用法や数学教育用ソフトを使った実習を中心に授業を進めています。それ以外にも実際に数学教育用ソフトを使った指導案の作成と発表なども行っています。



初等図画工作科教育法Ⅰ

この授業では、学校教育の現場における取り組みを想定した内容の紹介を目指して構成しています。特に小学校の低学年から高学年にかけての図画工作科の各領域の題材を実際に体験しながら、学習指導要領（新学習指導要領を含む）を踏まえた理論との関連を確認し、この教科で身に付けるべき学力について、考えていくことができるようにします。



初等生活科教育法Ⅰ・Ⅱ

生活科は、小学校第1・2学年にのみ設置されている教科です。その特色は、子どもたちが具体的な活動や体験を通して学ぶということ、そして、子ども一人一人の思いや願いを実現する過程を学習の過程として構成するということです。初等生活科教育法Ⅰ・Ⅱでは、生活科を指導する教師に必要な知識・技能を身につけます。つまり、子どもの興味・関心を支え、学習意欲を喚起する教材の工夫、授業展開、単元構成の工夫などについて、理論的・実践的に学びます。以下の写真は、身近なものを使った遊びとして、かみひこうき大会を行っています。簡単な遊びのなかにもその子なりのこだわりや思い、工夫があることでしょう。子ども一人一人の個性を支える温かな教育的まなざしと確かな実践力を身につけることを期待します。



開設科目の紹介

理科基礎 A (理論)

小学校理科の授業(主な領域:エネルギー、粒子、生命、地球)を担当する力をつけるために、物理・化学・生物・地学の4分野に関する基礎的な理論を学びます。物理分野では主に力と運動や空気と水の性質、音や光の性質、電気と磁石について、化学分野では主に物の溶け方や水溶液の性質について、生物分野では主に植物や動物のつくりや働き・成長や誕生および生物と環境の関わりについて、地学分野では主に流れる水のはたらきと土地の変化、天気の様子や変化についての理解を深めます。子どもたちが理科を楽しみながら科学的思考力を伸ばす授業づくりの素養を育みます。



異文化理解 I (英語教育の中の異文化理解)

異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する英語文献を読んだり、映像を視聴したりして、文化の多様性や異文化間に生じる課題等を理解し、様々な国一特に英語圏一の文化や歴史の枠組みからその問題を捉え、解決できる素地を養います。また中学・高等学校における外国語科目の授業に役に立つ知見を身につけることを目指します。

幼児と人間関係 (社会性のつまずきと支援の現代的課題)

幼稚園の免許のために必要な保育内容の5領域の1つ、「人間関係」の専門的な内容を伝える授業科目です。金沢大学にも『幼児と人間関係』という科目がありますが、富山大学の授業では、発達のおつまずきがどのような原因によって生じるのか、どのような発達支援が有効なのかについて、脳科学の研究成果も踏まえながら解説します。



国語科基礎 A (書写を含む)

知識及び技能、「読むこと」「書くこと」領域の内容理解を目標とした授業を実践するための国語科の各分野の基礎知識を概説します。先行研究で基礎を固めた上で、エビデンスに基づく計量的な研究成果も踏まえて、現代的な国語科の授業・研究のあり方を提案します。知識だけではなく、十分な実践力を育成するために、必要に応じて簡単な課題の作成、発表など行う場合もあります。受講者と一緒に、地域・現代の文学作品、方言、伝統芸能を題材に地域に根差した国語科の学習を創造します。

陸上 I

すべてのスポーツの基礎となる「走る・跳ぶ・投げる」について、「より速く、より遠く、より高く」パフォーマンスを発揮させる指導方法を学びます。国際陸連コーチ資格(CECS レベル 4 コーチ)を有した教員が担当し、スポーツ心理学(心)、バイオメカニクス(技)、体力学(体)の研究知見をふまえながらも、豊富な現場指導の経験から得た実践の知識も提供します。授業の振り返りでは、受講生が先生役となり他の学生を指導することで、現場での実践力を育みます。



初等音楽科教育法 I・II

小学校音楽科の授業では、音楽表現の技能や鑑賞に関わる知識を身につけるだけではなく、それらをもとに子どもたちがよりよい表現を工夫したり、音楽を味わって聴いたりすることが大切です。この初等音楽科教育法では、そうした授業をデザインできるようになるための理論を中心に、具体的な授業事例を紹介しながら学修します。



器械運動Ⅱ

この授業では、器械運動の指導法を学習する前提として、マット、とび箱、鉄棒の様々な技の習得を目指します。写真は、本学で開発された逆上がり練習器を使った練習風景です。



社会科基礎 A (中学年の社会科と現代の教育課題)

富山県・石川県に関する近年の地域研究の成果も踏まえながら、地域学習の比重が大きい小学校中学年(3・4年生)での社会科授業を組み立てていく力を養うことを目的とします。

社会科の3つの分野について、具体的には以下の内容とします。地理的分野では、身近な空間を経験する中から地理的知識を発見する方法、それを整理し理解する方法などについて体得します。歴史的分野では、初等中等教育における歴史教育の在り方と問題について認識を深めます。公民的分野では、初等中等教育において教える基本的概念を理解します。総じて社会科を支える各学問の基本的視角やその教育方法の理解を深めることを期待します。

特別な支援を要する子どもの理解

この授業では、特別な支援を必要とする子どもの学習上または生活上の困難を理解するために必要な、発達障害や知的障害をはじめとする障害の特性及び心身の発達を学びます。知的障害・精神障害児の診療を行っている小児科医が、その経験を活かして事例を紹介しながら金沢大学と富山大学を遠隔システムでつないで講義を行います。



教育の思想と歴史(西洋)

この授業では、「教育とはそもそもどんな営みか」、「子育てや学校はどう変化してきたのか」といった問いのもと、西洋における教育の思想と歴史を学習します。こうした学習を通して、教育学の各分野や各教科の教育を学んでいくための土台を固めるとともに、現代社会における教育や学校の意義・可能性・課題について批判的・創造的に考える力を養います。

教授・学習心理学 (個別最適化学習の理論と実践)

この授業では、心理学の知見から明らかになった子どもの学習に関する基礎的な知識を身に付けることを目指します。そして、子どもの発達や能力・適性を踏まえた個別最適化学習を支える指導について基礎的な考え方を学びます。教師としての効果的な教授法を学ぶだけでなく、大学生として効果的に学ぶためにはどうしたらよいのか、講義を通して考えていきます。



英語学概論Ⅰ(文法と現在の英語教育)

英語学の基本的な概念を学び、英文法をより深く理解するための基礎を作ることが目的とします。英語学の諸分野のうち比較的とつきやすい形態論や英語史などを手始めに取り上げます。形態論では、philosophy → philo+sophy のように単語の成り立ちや内部構造を勉強します。英語史では、cynning → king のように昔の英語から現在の英語にかけての変化を考察します。こうした専門的知識を今の英語教育の現場でどう活かすのかも受講者各自が考えることを期待します。写真は昔の英語で書かれたベオウルフという書物です。

Oft Scyld Scēfing sceapena brēatum,
monegum mægþum meodo-setla oftēah;
egsode Eorle, syððan ærest wearð
fēasceaft funden; hē þæs frōfre gebād:
wēox under wolcnum, weorð-myndum þāh,
oðæt him æghwylc þāra ymb-sittendra
ofer hron-rāde hýran scolde,
gomban gylðan: þæt wæs gōd cyning!
Ðāem eafera wæs æfter cenned

豊かな人材を 育てるために

◆教育実習

教育実習は附属学校園だけでなく、協力学校にもお願いし、学生を受け入れる体制を整えています。大学で実体験としては学びにくい発問の仕方、板書の仕方、児童との接し方など、実際に教育現場に立ったときに役立つ内容について、丁寧な指導を受けます。

教育学部では、教師として求められる資質や能力を身につけるための環境と体制づくりに、常に心を配っています。



附属小学校での教育実習



附属幼稚園での教育実習

附属中学校での教育実習

■富山県教育委員会との協力で実施される特色ある事業

■学校体験活動（学びのアシスト／スタディ・メイトジュニア）

「学校体験活動」は、1年次の4月から2月までの通年で、講義と配置校での実習を併せもった創造的な授業です。この授業を通して、子どもたちが郷土に愛情と誇りをもち、生き生きと逞しく生きる力を身につけられるように、使命感をもって臨む教師が一人でも多く育つことを期待しています。

4月から8月上旬までの講義を通して、学校や教育や子どもについて知識を得たのち、9月上旬から2月下旬までは学校現場での実習となります。この後期の実習では、2つのコースに分かれます。Aコースは「学びのアシスト」、Bコースは「スタディ・メイトジュニア」です。どちらも学校現場に身を置き、子どもたちの学びや育ちを支援します。両コースともに、富山県（市町村）教育委員会と富山大学教育学部の緊密な連携・協力のもと、教員志望の学生が進んで個々の学校にアシスタント・ティーチャーとして直接参加します。学級経営活動や子どもの支援活動に携わりながら、自らの資質・能力等の向上を主体的に図っていく姿勢が不可欠です。

また、この授業には富山県教育委員会から交通費の助成があります。将来の教員の担い手である学生は、県から大きな期待をされています。



学校現場での活動（上）
大学での講義（右）



学びのアシストに参加して

私にとって学校現場を体験する最初の機会でした。忙しい中、6ヶ月という非常に長い期間受け入れてくださって感謝の気持ちでいっぱいです。先生方にたくさんご教授いただき、非常に多くのことを学ぶことができました。特に印象的だったことが、「待つ」ことの大切さ、言葉への言い換え、コミュニケーションの役割です。大学の講義ではなく、現場での経験だからこそ学べたことだと思います。また、各学年の学級を経験させて頂いたことで、それぞれの発達段階に応じた授業の作り方、学級の作り方を学びました。高学年の静かに授業を受けながらも進んで発言する姿があるのは、単に年齢を重ねたからではなく、1学年からの積み上げがあったからであるということを実感しました。成長する姿を想像しながら児童ひとりひとりの個性を輝かせられる教師を目指したいです。

（「学校体験活動」報告書から抜粋）

スタディ・メイトジュニアに参加して

毎回、活動後に担任の先生が振り返りをする時間を作ってくださいました。その日の中で困ったことやどうして良いかわからなかったことなどを相談させていただきました。この時間を通して先生が子ども一人一人の性格や特性をよく理解し、子どもにあった方法で活動の内容や声かけの仕方を判断されているのだということを知りました。私が活動中に特に意識していなかった部分でも、先生は意図をもって行動されていたのだということがわかり、指導する上で工夫できることが思っていた以上にたくさんあると学びました。子どもたちの成長を第一に考えて行動しておられる先生の姿に感銘を受けました。私は子供達の発言や行動に対して反応する、返事をする、といった、後出しの関わり方になってしまうことが多かったと思います。自分が先生としてその場にいるのだという自覚を持ち、先生としてどのような指導ができるか、どのように行動するべきかを柔軟かつ積極的に考えていくことが重要だと感じました。

（「学校体験活動」報告書から。一部句や表現を修正）

4月～8月上旬

学校・教育・子ども
に関する講義（共通）

9月上旬～2月下旬

A コース
学びのアシスト

学校現場で
の体験活動
（実習）

B コース
スタディ・メイトジュニア

学級担任として学級経営をどのように進めていくかを理解することを重視したコース

支援が必要な子どもに寄り添いながら、子どもの視点に立った支援のあり方を学ぶコース

学校体験活動の流れ

■地域教材研究（富山学）

本講義の目的は、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など富山県に特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、（１）教員としての情熱・希望・使命感を高めるとともに（２）教材開発などの実践的指導力の向上を図ることにあります。この講義においては、富山県教育委員会から派遣された各教育事務所等の指導主事の方を講師として、15回の講義の内13回を担当していただきます。

受講学生の感想

私は富山学を通して引き出しの多い教師になりたいと思いました。この講義では導入について自分が今まで気づくことのなかったポイントや工夫を知る事ができたため、自分の引き出しを増やすことができた講義であると思いました。また子どもたちに実際に経験させるということが大事であることができたことも理由に挙げられます。自分が実際に経験したことは子どもたちの心の中にも残るし、とても身近にその物事を感じることが出来ます。写真を見せることも一つかもしれませんが、子どもたちと実際の映像やものを見に行ったり自分たちの足で調べに行ったりという経験をさせることも大切であると思います。子どもたちが経験することで本物の経験がより子どもたちに具体的な考えを与え、思考させることにつながると思います。子どもたちの学びを机上で深めるだけでなく、外に出て深めることも自分が教師という視点に立ったときにしていきたいと思ったため印象に残っています。

（「富山学」最終レポートから。一部内容を修正・省略）

■心のサポーター

県教育委員会、市町村教育委員会及び富山大学教育学部の連携・協力のもと、心理学系の教員の指導を受けながら、3・4年生及び大学院生を県内の小・中学校（主に中学校）に派遣し、休憩時間や放課後等に行う相談活動の補助を同一校において継続して行います。相談活動を一層充実させ、個に応じたきめ細かな支援を推進するとともに、教員志望の学生の資質能力の向上を図ります。なお、本事業は学部授業「臨床心理実習」の一部としても実施しています。

■英語学習パートナー

英語を得意とする学生を小学校に派遣し、英語学習パートナーとして外国語活動・外国語科の指導補助に取り組むことにより、児童の英語でのコミュニケーションへの意欲の向上を図りながら、指導を一層充実させるとともに、教員志望の学生の資質・能力等の向上を図ります。

■観察実験アシスタント

授業やゼミの空き時間を活用し、毎週1回程度通勤する「長期のインターンシップ（有給）」で、小学校・中学校理科の実験・観察の準備・片付け、予備実験、授業補助、理科室や理科準備室等の環境整備をするのがその仕事です。いずれも、小・中学校の理科の授業を行うための重要な仕事で、これらを学校で経験することで、学生時代に理科の授業づくりについての現場感覚を磨くとともに、教職への意欲を高めています。

観察実験アシスタントが理科の授業に必要な基本的な知識や技能を身に付けるために、6月と8月に富山県総合教育センターで行われるのが実技研修会です。6月は前期勤務開始の学生が、8月は後期勤務開始の学生がそれぞれ受講対象で、物理、化学、生物（地学）の3分野に分かれて研修を受けます。

研修内容は、単眼（双眼実体）顕微鏡による微生物・鉱物の観察や水溶液のろ過といった小・中学校理科の指導に直結する内容や観察実験における安全指導、基本的な実験器具の使い方、電気を使った実験の基本操作、児童生徒への学習補助の仕方など多岐にわたります。

これらの研修内容や日々の観察実験アシスタントとしての活動は、将来教職に就いたときにも大いに役立つものです。

●令和6年度に行われた講義の内容

第1回 「富山学」とは何か

第2回 地域教材研究とは何か

第3回 富山の中にある文学

第4回 ふるさとの魅力発信に向けて

第5回 富山の教育の今～キャリア教育の取組から～

第6回 下村の稲作（総合的な学習の時間の実践より）

第7回 「越中八尾おわら風の盆」研究

第8回 富山にまつわる数

前半

第1回 富山の食文化

第2回 富山県のなぜ？どうして？自然・科学

第3回 廃藩置県から富山県誕生までの12年間の歴史

第4回 富山県の理科教育を支援するー総合教育センターの取組からー

第5回 富山 縁のスポーツ

第6回 生活の中にある算数

第7回 「富山学」まとめ

後半

■外国人支援スタッフ

教員志望の2年生以上の学生を小・中学校に派遣して、個々の児童生徒に寄り添いながら、日本語指導や学習面でのサポートなど学校生活の支援に取り組んでいます。今後富山県でも増加が予想される外国人児童生徒の文化を学び、支援の経験を積むことを目的とします。

■ICT サポーター

ICT（情報通信技術）を活用した授業や活動に関心のある学生を小学校に派遣し、「ICTサポーター」としてタブレットやパソコンなどを学びや学校生活に生かすことができるようにサポートします。児童の学習意欲を高めるとともに、興味の幅を広げることにつながる活動です。

私は観察実験アシスタントとして、週に1回、授業の補助や実験器具の準備、後片付け、理科室の整備等を行いました。特に印象的だったのは、授業中の児童たちが新たな気づきを得て目を輝かせたり、「なんでこうなるの?」と驚きの声を上げたりする姿に立ち会えたことです。ただ実験の手順をこなすのではなく、自分の目で見た変化に興味を持ち、面白いと感じている様子を目の当たりにし、学びの楽しさを実感しました。また、教師の方々が児童の発言に寄り添い、適切な問いかけを通じて児童の思考を引き出す姿を見て、授業の進め方や児童が主体的に学ぶために必要な工夫を学ぶことができました。

この活動では、児童に直接教えるだけでなく、授業の裏側で支える環境整備や準備の大切さも学びました。例えば、実験器具に破損がないかを確認したり、決められた場所に整理・保管するなど、準備や整備をしっかり行うことで、児童が安全に授業に取り組める環境を整えることができます。逆に準備が不十分だと授業が滞ることもあり、事前の工夫が授業全体の質を左右することを痛感しました。

観察実験アシスタントは、児童の学びを支えながら、自分自身も教育の現場で多くの経験を積むことができる貴重な機会でした。児童の思考を促し、学びを支える経験は、将来、教職を目指す上で大きな糧になると考えています。子どもたちの発見に触れ、教師の工夫を学びながら成長できるこの活動に挑戦し、とても良かったと感じています。

（教育学部4年）

観察実験アシスタントに参加して

子どもとのふれあい体験

各コースの紹介

「子どもとのふれあい体験」は、20年以上続いている、教育学部の1年生対象の特徴ある授業科目です。社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあう体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供する目的で設定されています。この科目は、単に大学内に留まらずに、各コースとも地域社会に出て、関係団体・施設等との関わりの中で、人を育てる人を育成する科目として非常に重要な役割を果たしています。この科目を選択して、年間60時間の活動を行い、体験レポートを作成すると、2単位を取得できます。社会と繋がる貴重な実践の場として認識されています。

遊び援助コース



遊び援助コースは、児童期の健全育成を体験的に理解するためのコースです。小学生は家庭・学校で生活するだけでなく、地域の様々な施設を利用して毎日を過ごしています。このコースでは、健全な遊び場を提供して放課後や土日祝日・長期休業中の子どもの生活を支える、児童福祉のための施設で子どもたちとふれあう体験を行います。このコースに参加することで、学校では見られない子どもの姿を身近に感じたり、小学校が児童健全育成施設とどのように連携すべきなのかを考えたりすることを目的としています。



美術館子どもワークショップ運営コース



本コースでは、富山県内の美術館における子ども対象のワークショップ「とみだい☆ベケベケアートショップ」を準備・運営します。ここでは、展示作品の鑑賞をきっかけにした制作を行うワークショップを通して、子どもたちとふれあうことを目的とします。美術作品に親しむことを核にした作品との出会いの仕組み方や、楽しいものづくりの準備を行うことで、子どもたちに興味・関心を抱かせるための活動をどのように運営していくかについて実践的に学ぶことができますようにします。

昨年度は、対面開催により、合計8回のワークショップを開催しました。



科学実験・ICT活用コース



本コースでは、主に学校外における教育機会への参加を通じて、子どもとのふれあいの中で広い意味でのサイエンス・教科教育・ICT活用を行うための基礎を学びます。子どもに「楽しい」「面白い」と感じてもらいながら正しい科学やICTの知識を身につけてもらうための工夫を重ねる中で、自分自身（受講生）の学習と教育実践を結び付け力を養います。

子どもたちを対象にした楽しい実験の場を設けるための企画立案や実験内容の検討を行いながら、安全に配慮した子ども向け実験・ICT活用を行うための力を養います。



子どもの運動遊びコース



本コースでは、幼児から中学生を対象とした、運動あそび教室「キッズムーバーズアカデミー」を企画・運営します。昨年度は富山大学で行うイベント、近隣の児童館での教室、市町村への出前教室などを行いました。運動が得意な人は、からだを動かす楽しさをみんなで分かち合いませんか？運動が苦手だと思っている人は、苦手意識があるからこそ工夫して「楽しい！」「できそう！」「できた！！」と思える運動あそびを一緒に作成しませんか？

ムーバーズとは楽しくからだを動かし、運動の楽しさを味わう人。みんなもムーバーズになろう！



発達の気になる子どもの援助コース



本コースは、発達の気になる子どもたち、特に中学生と高校生にとって、「仲間と適切に関わる活動を通して、楽しい時間を過ごすことができる」「自分の好きなことや得意な活動を見つけることができる」ための、活動の機会や場を企画・考案・提供し、ともに楽しみながら活動することを目的としています。具体的には、以下の活動を通して、子どもの発達と社会参加について考える力を養います。

- ① 軽スポーツ：大縄跳びやバドミントン、モルック等
- ② 余暇活動：皆で楽しめる室内ゲーム、少人数でできるカードゲームや卓上ゲーム等
- ③ 外出：ボウリング場など公共施設の利用、商業施設でのショッピングやレストラン利用等



野外活動コース



本コースでは、ボランティア活動の基本的な考えや野外活動（自然体験）の魅力を理解するとともに、野外活動を安全に実施するための基礎的技術を習得し、子どもたちと充実した野外活動ができるようになることを目指します。

子どもたちの学習や生活をサポートする活動を通して、子どもたちの学習・生活上の特性や関係づくりの方法を理解し、子どもの発達を支援することを学びます。

学校教員になった際には、学外実習として開催される遠足や修学旅行で活用できる知識や技能となります。



歴史の道場：歴史家への一步コース



子どもたちに、歴史的な物事をもとに遊び・学ぶことの面白さや充実感を味わってもらうことを目指して活動しています。活動内容は、歴史的な物事をテーマとした数回のワークショップの企画・運営です。活動では、子どもの興味関心や主体的な活動を尊重し、子どもが主役、学生はサポート役という意識で臨んでもらっています。子どもたちと、歴史に遊び・学ぶことで、ともに「歴史家」への一步を踏み出してもらいたいと思っています。

本コースで対象とする歴史は、文献史学の範囲（文字以降の時代）を中心としながら、文字以前の時代、ひいては人類誕生よりも前まで、時間幅を広く扱います。学問分野としては、主に歴史学（文献史学）から考古学、さらには生物学に関わり、社会科学や理科といった教科の枠を超えた視点も含まれます。



家庭科内容学コース



本コースでは、家庭科の内容学教育の企画・運営を通して、児童・生徒の理解度に合わせて思考する能力を養うことを目的とし、次のような達成目標を設定しています。本コースに参加することで、皆さん自身もより充実した生活を営んでいくことにつながると考えられます。

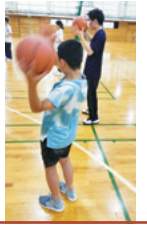
- ・家庭科内容学の基礎となる知識や技術についての理解を深め、生活の中の事象を科学的に捉える。
- ・児童・生徒の発達段階や実態に合わせた家庭科内容学に関わる教育活動を企画・運営する。
- ・家庭生活における持続可能性について理解する。



体育&自然体験&英語&インクルーシブ教育コース



体育&自然体験&英語&インクルーシブ教育コースは、国籍、人種、性差、言語、宗教、経済状況、障害のあるなしに関わらず、すべての子どもと様々な活動を行うコースです。体験内容は、コーディネーショントレーニング、バスケットボール、サッカー、テニス、ドッジボール、スキー、スケート、登山、宿泊学習、畑づくりなど様々な内容があります。さらに、これらの体験は、簡単な英会話を通して進んでいきます。子どもを引率する技術や安全への配慮も学べます。写真は、子どもが学生に、バスケットボールのボールコントロールを教えてもらっているところです。また、これとは別に、発達障害のある方の余暇支援も行います。一緒に買い物に行ったり、料理を作ったりします。発達障害のある方との接し方、伝え方などを学んでいきます。



子どもと地域プロジェクトコース



子どもと地域プロジェクトコースでは、主に小学生を対象とし、コミュニティにおける子どもの活動を計画し実践することを通して、学校・家庭とは別の「地域」に子どもたちが包摂されることの理解を目的としています。子どもたちには外国ルーツの子たちも含み、多様な子どもたちの様子を学びます。年間を通して、運動（体を使った遊び）、室内ゲーム、室外活動（畑での野菜栽培）、動物飼育（カブトムシの飼育）、学習活動、など様々な活動をし、地域の子どもたちと交流します。

子どもたちが地域の資源・住民と関わり交流するなかで地域でのつながりを強め、安心できるコミュニティを作っていくことを実感し、その意義を語り合しましょう。

富山大・金沢大 合同！

野外体験活動

小学校や中学校で実施されることが多い野外体験活動の目的と学習効果について、自然体験合宿を通して実践的に学びます。また、合宿の準備、実体験、振り返りを通して子どもの発達段階に対応した野外活動の指導に必要な知識や技術を習得します。

この活動は、富山大学と金沢大学の学生ユニットが合同で参加します。



活動予定表 国立山青少年自然の家 例

1日目	
10:00 ~ 10:30	入所式・荷物整理
10:30 ~ 12:00	アイスブレイク（プレイルーム）
12:30 ~ 13:30	昼食
14:00 ~ 16:30	【雨天決行】沢登り→ナイトハイク（見晴らし広場・不動棟）下見 【雷等】館内オリエンテーリング
17:00 ~ 17:30	夕飯のつどい
17:30 ~ 18:30	夕食
19:45 ~ 21:00	【少雨決行】ナイトハイク（見晴らし広場・不動棟） 【雷等】仲間づくり活動
終了後 22:00	入浴 消灯
2日目	
6:30 ~ 7:00	起床・清掃
7:00 ~ 7:30	朝のつどい
7:30 ~ 8:30	朝食
8:40 ~ 9:00	部屋点検
9:00 ~ 12:00	【雨天決行】ピザ作り～昼食
13:00 ~ 14:00	マイスプーン・マイフォークづくり
14:30 ~ 15:00	退所式



富山大・金沢大 合同！

エクスカージョン

学生が企画し、富山大学と金沢大学の同じユニットが合同で参加する体験型の活動です。活動形式は企画する学生たちが決め、互いの交流も目的として計画を立てます。必要事項が記された「しおり」の作成や実際の運営など、子どもたちを引率する立場になった時にどのように行動すれば良いかを意識しながら活動します。



アクセス



●詳しくはホームページでご確認ください。

【東京から】・羽田空港から富山空港へ(約1時間)
・北陸新幹線でJR富山駅へ(約2時間10分)

【大阪から】・JR大阪駅からJR敦賀駅へ
北陸新幹線に乗り換え(約3時間)
・名神高速道路～北陸自動車道～富山I.C.

【名古屋から】・JR名古屋駅からJR敦賀駅へ
北陸新幹線に乗り換え(約3時間20分)
・名神高速道路～東海北陸自動車道～
北陸自動車道～富山I.C.

【北海道から】・札幌・新千歳空港から富山空港へ
(約1時間30分)

五福キャンパス & 杉谷キャンパス



【富山駅前から五福キャンパスへ】
・市内電車:「富山大学前」行き、「富山大学前」下車(約15分)
・路線バス:「富山大学前経由」(4番乗り場)、
「富山大学前」下車(約20分)

【富山駅前から杉谷キャンパスへ】
・路線バス:「富山大学附属病院循環」(4番乗り場)、
「富山大学附属病院」下車(約30分)

※五福キャンパス内の外来専用駐車場が手狭なため
ご来学にあたっては、なるべく公共の交通機関等をご
利用くださいますようお願いいたします。

※五福キャンパス:人文学部、教育学部、経済学部、
理学部、工学部、都市デザイン学部

※杉谷キャンパス:医学部、薬学部、
富山大学附属病院、和漢医薬学総合研究所

※高岡キャンパス:芸術文化学部

※五稜地区:富山大学教育学部附属学校園

※寺町地区:国際交流会館、新樹寮



Live & Learn in Toyama.

富山で学ぶ。富山大学で学ぶ。

表紙写真:「雨晴海岸から昇る朝日」

撮影:イナガキヤスト



教育学部ウェブサイト:

URL: <https://www.edu.u-toyama.ac.jp>



富山大学教育学部

〒930-8555 富山県富山市五福3190 Tel. 076-445-6259

E-mail: kyominfo@adm.u-toyama.ac.jp

※掲載情報は2025年4月現在のものです。最新情報はWebサイトにてご確認ください。

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。